

高次脳機能障害支援『愛媛モデル』について

去る6月28日、愛媛県医師会館にて松山リハビリテーション病院主催により「愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会」が開催され、講師に白山靖彦氏(徳島大学大学院 教授)と中島八十一氏(国立障害者リハビリテーションセンター学院長)をお招きしました。白山教授は三重県の同障害支援体制づくりに携わっており、三重県と比較分析した愛媛県の現状等について。また、中島学院長には、同障害がある人を福祉現場がよりスムーズに受け入れるための先進事例についてご講演いただきました。

今回、白山教授の取り上げられた同障害支援『愛媛モデル』についてご紹介します。

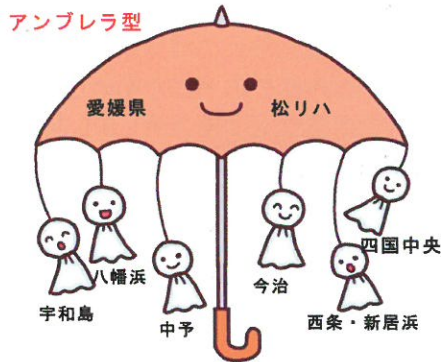


図1 愛媛モデル イメージ図

来院相談5倍

平成25年度、当院への来院相談件数は954件あり、前年度に比べて約5倍に増えました。各地域の協力により、高次脳機能障害への理解や個別支援の形が根付いてきたこと、さらに当院から急性期の医療機関への呼び掛けなどにより、件数が増えたとおもわれます。また、県下6つの協力病院や各保健所も相談件数が増えており、高次脳機能障害支援普及事業先進圏である三重県(人口、面積等が愛媛県とほぼ同じ)を超えました。

愛媛モデルとは…

愛媛県では県健康増進課と支援拠点機関となる松山リハビリテーション病院、地域の中核を担う保健所及び指定協力病院が連携しながら地域主導型の支援を担っています。愛媛モデルは、当院が中心となりアウトリーチ型のサポートを行いながら、各関係機関が主体的に支援に取り組むことを指します。これはアンブレラ方式とも言われています。



図2 人口10万人あたりの相談件数(三重県と愛媛県の比較)



相談支援コーディネーター

このような支援の取り組みや高次脳機能障害をもつ方の社会復帰の内容等が、9月4日の「おはよう えひめ」(NHK松山放送局)でも放映されました。

当院では、今後も「住み慣れた地域で安心した暮らしができる」ことを目標に、皆様のご指導・ご協力を頂きながら、高次脳機能障害支援を進めていきます。

【図1、図2は白山教授 愛媛県拠点機関講習会資料より引用】



松リハ★スペシャリスト

No.3 リハビリテーション部 理学療法科 中田 衛樹

第19回愛媛県理学療法士学会学術集会で「新人賞」を受賞しました。

今回の研究内容は、脳梗塞を発症し、片麻痺と高次脳機能障害の患者様に対して、逆方向連鎖化という技法を使って寝返りと起き上がり動作の練習を行い、その成果を報告するというものでした。結果は、1日で寝返りが可能に、起き上がりは2週間程で可能になりました。

それまで、この患者様に対して寝返り・起き上がり動作練習を順方向で行っていましたが、なかなか思うように効果が表れず困っていました。そして、この練習方法に出会い、その効果に驚きと「なぜできるようになったのか」という疑問が生まれ、今回の研究に至りました。初めての研究と発表のため、資料の作成と質疑応答の準備に苦労しました。パワーポイントでのスライド作り等も、経験がなかったため画像を張り付けたり、文章や構成を考えたり、予想以上に時間がかかってしまいました。

今後の目標としては、このような研究を通して、患者様に少しでも「できること」として還元していけるように、そして「できること」が一つでも多くの「していること」に変えることができるよう精進していきます。



左:中田PT 右:井村PT

No.4 リハビリテーション部 理学療法科 井村 裕介

第19回愛媛県理学療法士学会学術集会で「学会奨励賞」を受賞しました。

今回の研究内容は、担当させて頂いた左片麻痺患者様に対して、前鋸筋と腹斜筋との筋連結に着目したアプローチを実施したことにより、患者様の姿勢や歩行能力に改善を認めたという内容です。今回が初めての学会発表ということもあり、研究の進め方や発表資料の作成方法などわからないことが多く、とても苦労しました。

そしてこの研究結果をまとめ、「脳梗塞により左片麻痺を呈した症例－腹部筋と前鋸筋の関連性に着目して－」と題し、今年3月に開催された当学術集会において一般演題として発表しました。その結果、学会奨励賞を受賞することができました。今回の受賞は、協力して頂いた患者様やアドバイスを頂いた先輩方、他部門のスタッフの方々の協力があってこそ受賞できたものと思っています。この場を借りてお礼申し上げます。

今後の目標としては、患者様に対して質の高いリハビリテーションを提供できるよう引き続き自己研鑽に励むとともに、次の学会発表へ向けて準備を進めたいと考えています。



医療安全情報

平成26年4月より医療安全管理者として活動している今井です。現在、医療安全に関する活動として、週1回の医療安全管理者ミーティングと病棟、訓練室等へのラウンドを実施しています。

医療安全管理者ミーティングでは、医療安全に関する病棟ラウンド（インシデント対策遵守確認・転倒転落防止）や医療安全管理指針・各部署安全マニュアルの見直し、医療安全職員研修の立案などに取り組んでいます。

病棟ラウンドについては、医師の協力を得て（インシデント対策遵守確認について、医療安全管理委員長の宮内医師。転倒転落防止ラウンドについては、身体拘束廃止委員長の新津医師）毎月実施しており、今までに立案されたインシデント対策や転倒・転落予防対策が守られているかをチェックしています。回を重ねていくにつれ改善されているのですが、新たな問題も生じています。

これからも医療安全管理者の活動を通じて、患者様により一層安全な入院生活を送っていただける環境づくりを目指していきます。

（医療安全管理者 今井）



医療安全管理者ミーティング

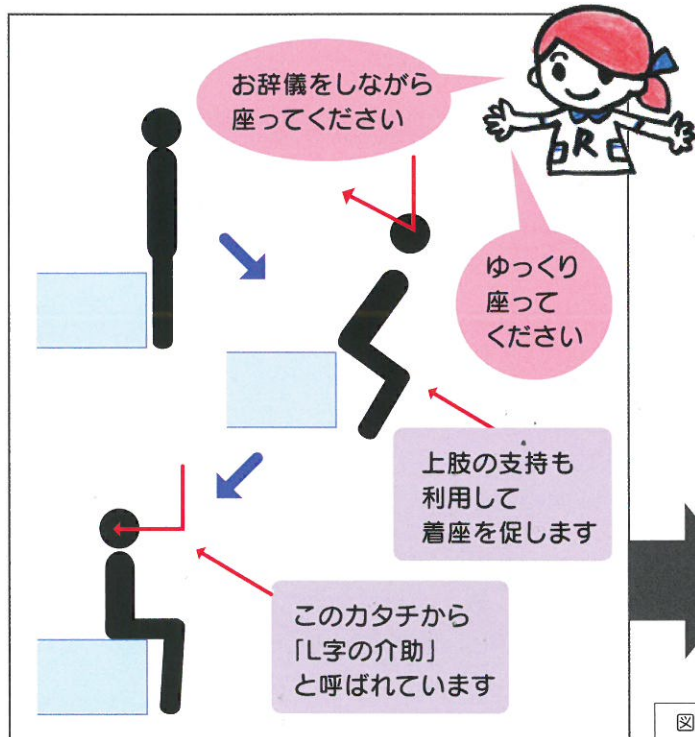
“ちょっとリハ”

そのちょっとで生活がひろがる!

回復期
リハビリシリーズ
No.5

「生活行為に優る訓練なし」と言われるように、日々の生活に不可欠な身体の動きを可能にすることが重要であり、病棟生活に関わる看護師・介護士の役割はとても大きいです。

訓練室では一生懸命に歩行訓練を行っているものの、病室に戻ればベッドの上で寝ておられる患者様をお見



かけすることはありませんか？訓練室で歩行や立ち上がりができることは大切ですが、「できる動作」よりも『している動作』が生活を作っていきます。『できる動作』を『している動作』にするために、私たちは環境調整を行い、患者様自身が行う生活行為を安全に安楽にできることを保障することが必要です。そこで、“ちょっとリハ”の一例をご紹介します。

「ちょっとした」関わりですが、繰り返されることで患者様は自信の力を取り戻していくことができます。

(回復期リハビリテーション認定看護師 竹田)

股関節・足関節の可動域の向上、
大腿四頭筋の強化に繋がります。

図は、エキスパートナース Vol.29 No.11 2013.9 69頁より引用

リハビリテーション講座

Rehabilitation Course

No.9

シーティング▼

皆さんがよく見かけられる車いすは「スタンダードタイプ」と呼ばれるもので、折り畳みができ収納しやすく、病院をはじめ空港などの公共機関等で利用されています。しかし、身体に合わせて調整する事ができないため、ずり落ちや片側に傾くなど悪い姿勢をとることになり、痛みや褥瘡などへの二次障害が生じてきます。また、姿勢の悪さによって生じる問題はこれに留まらず、誤嚥、肺炎などの呼吸器系の疾患や消化器系疾患、循環器系疾患などがあります。

シーティングの基本原則は、車いすに身体を合わせるのではなく、車いすを身体にあわせることです。シーティングに使われる車いすには様々なタイプがあり、良く使用されるのは右の2つのタイプとなります。

座面に敷くクッションも、厚み・固さ・素材等で様々なバリエーションがあります。どの製品にも長所と短所があり、目的や身体の状態を考慮して選ぶ必要があります。

当院では、車いすを選ぶことのできる作業療法士が、患者様や家族様の希望を適えるシーティングを提供しておりますが、そのためには皆様のご意見・ご希望をスタッフに伝えていただくことが重要です。車いすのことでお困りのことがございましたら、お気軽にリハビリスタッフにお声かけ下さい。

(作業療法士 片上)

モジュラータイプ

身体の高さや関節の動く角度などに合わせて車いすフレームを調整できる



ティルトリクライニングタイプ

座りやすい角度に座面や背もたれの角度を調整することができる



百人百色の あったか介護

味酒野ていれぎ荘は、「社会福祉法人慈光会 ていれぎ荘」が今年の3月31日に衣山5丁目に開設しました。

ていれぎ荘の「百人百色のあったか介護」の精神を受け継ぎながら個性の尊重に配慮し、今まで慣れ親しんだ環境を確保することで、よりご自宅に近い家庭的な雰囲気の中で生活を送って頂きたいと考えています。



基本理念

利用者の皆さまが心豊かな日々を過ごしていただけるよう努めます。

基本方針

利用者様が自律した日常生活を営む事が出来るように努めます。
 ころを込め誠実な介護を目指します。地域との交流に努めます。



【提供サービス】

- 介護老人福祉施設(特養) 60床6ユニット
 - ・全室個室のユニットケア
 - ・ユニットごとに浴室を設置しており、ゆっくりと入浴をして頂けます。
- 通所介護事業所(デイサービス) 定員12名
 - ・営業日:月~土
 - ・朝、夕の延長サービスを実施しています。
- 居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)
 - ・介護について不安や悩みをお持ちの高齢者の方や家族様の身近な相談窓口です。

〒791-8025 松山市衣山5丁目719番地1
 TEL.089-989-5571 FAX.089-989-5572
 ○伊予鉄高浜線 西衣山駅から徒歩5分



医療法人財団 慈強会 松山リハビリテーション病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院
 〒791-1111 松山市高井町1211番地
 TEL.089-975-7431 FAX.089-975-1670
 ホームページアドレス <http://www.jikyukai.or.jp>
 許可病床 326床・6病棟(回復期病棟160床・一般病棟116床・療養病棟50床)
 日本リハビリテーション医学会研修施設

●交通のご案内 伊予鉄久米駅より伊予鉄ループバス約15分 タクシー約7分

●関連施設紹介

介護老人保健施設 高井の里
 TEL.089-975-7761 FAX.089-976-5779

東松山在宅ケアセンター
 東松山訪問看護ステーション TEL.089-975-7425
 東松山居宅介護支援事業所 TEL.089-975-6158
 東松山訪問介護事業所 TEL.089-970-1238

社会福祉法人 慈光会 介護老人福祉施設 ていれぎ荘
 TEL.089-975-5558 FAX.089-975-9300

味酒野 ていれぎ荘
 TEL.089-989-5571 FAX.089-989-5572

〈松山市委託事業〉松山市地域包括支援センター 小野・久米地区
 TEL.089-970-3761 FAX.089-975-7620